

バングラデシュ国際投資サミット2021
2021年11月28日(日)
本田太郎外務大臣政務官からのメッセージ

本日は、バングラデシュ最大規模の投資サミットにお招きいただき、ありがとうございます。今回は直接の参加が叶わず残念ですが、バングラデシュを訪問させていただく日を楽しみにしております。

この2年間、我が国と同様にバングラデシュにおいても新型コロナウイルスの感染拡大は様々な方面で影響をもたらしてきたことと思います。しかし、ハシナ首相の力強いリーダーシップの下、現在は感染が収束に向かっていると聞き、嬉しく思います。それだけではなく、コロナ禍にあってもバングラデシュは、南アジアの中で特筆すべき経済回復を果たしています。バングラデシュにおいて、我が国がこれまで実施してきた750億円規模の新型コロナウイルス対策緊急支援円借款、300万回分を超えるアストラゼネカ社製ワクチン供与等を通じて、バングラデシュ政府のコロナとの闘いを後押しできたことを大変嬉しく思います。今後も、ワクチンの追加供与等、協力を進めて参ります。

バングラデシュの、過去10年以上に渡る経済・社会的発展は「奇跡」と呼ばれ、今年2月には2026年のLDC卒業が決定しました。2041年までの先進国入りという公約を掲げ、常に国民の声に耳を傾ける政策は、必ずや国の繁栄に寄与すると確信しています。

バングラデシュの飛躍的な経済成長、潜在的な市場の魅力により、日本企業の進出や投資も盛んになっています。投資額は過去10年で3倍以上になりました。今後ますます日本企業の進出が加速していくことを期待しています。

同時に、日本企業の進出が進むにつれ、いくつかの投資課

題も明らかになっています。通関の遅延、各種税制、輸入決済の電子送金、輸出インセンティブの内外無差別化、EPZやSEZの環境改善等が挙げられます。今回のような投資サミットの数機や官民合同経済対話といった枠組みを通じ、官民が連携して両国間で投資課題の解決がなされることを期待します。

バングラデシュと我が国は、来年2月に外交関係樹立50周年を迎えます。独立承認以降、我が国は最大の二国間開発パートナーとしてバングラデシュの経済・社会的繁栄を支えてきました。現在は日本の支援により、ダッカメトロ、ダッカ空港新ターミナル、マタバリ深海港等、経済成長著しいバングラデシュを象徴するような大型のインフラプロジェクトが着々と実現しています。我が国は「自由で開かれたインド太平洋」を推進するパートナーとして、今後も協力を継続していきます。今や両国関係の重要性は二国間のみならず、アジアやインド太平洋地域全体でも高まってきています。本日のような機会を通じて、両国関係の更なる深化に繋げていきたいと思ひます。

今後のバングラデシュの更なる発展に向けて、日本は常にバングラデシュに寄り添い、協力を継続していく所存です。

最後に、本サミットの成功、そしてバングラデシュの更なる発展・繁栄をお祈り申し上げます。